

教育目標		豊かな心 すこやかな体 人とかがわる力 ・自分で考え、行動する子ども ・健康でのびのびと活動する子ども ・みずみずしい感性をもつ子ども ・思いやりの心をもつ子ども ・仲間と共に伸びる子ども						
重点目標		指導の重点 (1) 幼児がいそいそと遊び、生活できる保育の充実をはかる (2) 広い自然豊かな園庭を生かした保育環境を園児とともに整備し創っていく (3) 近隣の小学校や保育園との交流を図る (4) 保護者の子育て支援をする						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標の達成に向け、24ヶ月を見通した指導のポイントを入れた教育課程の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの研究から分かった「伝えたい気持ちを育む」に加え、今年度からの研究「自ら好きなこと、興味のあることを見つけられる」ための具体的な指導のポイントを教育課程の中に盛り込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の幼児の姿や保育実践から、教育課程を学期ごとに見直す。 保護者アンケートにおいて、「子どもは自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「子どもは友だちと遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合がともに85%以上になる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果は100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 教育課程の、一学期分の見直しが年度末になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は教育課程担当者が中心となり、年度当初より教育課程の見直しの計画を立て職員間で共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等精選しながらゆとりをもった教育課程をつくってほしい。
	保育指導	<ul style="list-style-type: none"> 保育方法の改善と工夫(子どもが「好きなこと」「興味のあること」を自ら見つけられる環境構成と教師の援助を探る) 	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回講師を招聘し、園内研究会を行う。 短期指導計画の話し合いやエピソード記録による分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが「好きなこと」「興味のあること」を自ら見つけられる環境構成と教師の援助のポイントをまとめ職員間で共通理解する。 子どもが園生活の中で好きなこと、興味のあることを見つけ「成功体験」を得られたエピソードを園児一人につき1つ以上記録する。 保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で心動くような好きなこと、興味のあることを自ら見つけて遊ぶことを楽しんでいる」「保護者の願いに、園はこたえている」と回答した割合がともに85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが「好きなこと」「興味のあること」を自ら見つけた際に育つ力を「主体性」「好奇心」「探求心」「失敗してもあきらめない」「挑戦」「友達とかかわり」の6つにカテゴリー分けし、それぞれの資質について、保育エピソードから環境構成と教師の援助のポイントをまとめ、職員間で共通理解した。 アンケート結果はそれぞれ100%、93%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、講師を招聘し専門的指導を仰ぎながら、教師の保育実践力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートから保護者が満足されていることがわかる。教師間に保育観の違いはあると思うが、話し合い、共通理解を深め、保育にあたってほしい。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 保育指導案(個別指導計画)の改善と工夫 職員間の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導計画の見直しを行い子どもの実態に合ったねらいや支援方法を具体的に示す。 インクルーシブ研修会を企画し講師を招聘して子どもの実態把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象児の個別のねらいや配慮を要する幼児の姿を職員全体で把握し共通理解する。 対象児のねらいに応じた活動を保護者と連携しながら取り組む(学期に2回以上) 	4	<ul style="list-style-type: none"> 対象児の記録を回覧し、全職員が対象児の実態をタイムリーに把握できるようにした。 個に応じた活動を3学期から弁当日の午後に行った。 次年度は対象児増加に伴い、より教師間・教師と保護者間で連携しながら、一貫した支援体制を確立していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での情報共有を密にすると共に、各々が主体的に研修会に参加する等して、専門性の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の人数も鑑み、引き続き、教師間、保護者との連携を密にしていくことが望まれる。
豊かな心・健全な体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健全な幼児の成長を目指し保育内容に体幹を鍛える遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参観日などで、親子一緒に運動遊びを楽しめる保育を行い保護者にも体幹を鍛える大切さを実践、啓発していく。 体幹を鍛えるための様々な律動や運動遊びを保育に取り入れて実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊び指導員を年2回招聘し、遊びながら体幹を鍛えられる内容の講習会を企画する。 夏休みに親子でふれあいながら体幹を鍛えられる遊びプリントを配付する。 保護者アンケートにおいて「子どもは外遊びや身体を積極的に動かすことが好きである」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊び指導員による講習会での遊びを、継続して保育に取り入れることができた。またPTAと連携し親子3B体操講習会を実施した。 アンケート結果は100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も幼児の実態に応じ、年間を通して体幹強化につながる遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して、保護者も共に学ぶ機会を作ってほしい。
開かれ信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの作成とそれに沿った避難訓練の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の訓練を元に、園児や保護者に日頃からの防災意識の向上をはかる。 アナフィラキシー児の発作に対応する研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の避難訓練の実施。 全職員がエビペンの使用法等、アナフィラキシー児の非常時の対応を共通理解する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は計画通り実施できた。 全職員がアレルギー対応の研修会に参加し、非常時の対応を学ぶ機会をもった。 今後、アレルギー対応について非常時を想定しての訓練も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、危機管理についての研修会に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も研修を行い、教師1人ひとりが意識を高めることが必要であると思われる。
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなの広場」、「ちびっ子」や園庭開放を通して地域に開く。 積極的に園の情報を発信する。 保護者の教育力を活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日園庭開放を実施し、子育て相談に応じる。 預かり保育(せつようタイム)を実施する。 ホームページを月に2回以上更新し幼稚園の様子をタイムリーに発信できるようにしていく。 保護者による絵本の読み聞かせ会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり(せつようタイム)を学期に3回以上行う。 クラスだよりを月1回発行し保護者との連携を密にする。 ホームページを月2回以上更新する。 2学期以降、読み聞かせ会を学期に2回以上行う。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は子どもの生活や遊びの場としての環境を整えている」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> せつようタイムの参加率は毎回約95%あり、保護者支援が図られた。 アンケート結果は100%の肯定的な回答が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、クラスだよりやホームページを活用し、園情報を積極的に発信していく。 ホームページの更新日を保護者に知らせる。また、保護者の意見なども取り入れ内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の園庭の活用を考えてもらいたい。
幼児期・学校教育における人権教育の推進	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちへの人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発のために保護者懇談会で、啓発を促す。 職員自ら人権研修にすすんで参加し、人権感覚を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月に人権に関する懇談会を行う。 保護者に対し、年1回以上の人権研修への参加をすすめる。 保護者アンケートにおいて、「子どもは家庭や園で自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 約98%の保護者が、人権研修に年1回以上参加した。 アンケート結果は100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、引き続き懇談の実施や人権研修の参加を呼びかけ、保護者と教師が連携、情報共有をしながら人権感覚を磨いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の中での人権意識を高めてほしい。
学校関係者総括 アンケートから、園の取り組みが保護者に伝わっていることを感じる。今後も継続して日々の保育を大切にしていってほしい。								
次年度に向けた重点的な改善点 教師間のより密な連携を大切に日々保育にあたる。また、継続して家庭、地域と連携して子育て支援、園庭の活用に努める。								